

目 次

第 45 回大会 研究報告要旨

自由論題

博物学者の猫論争

—— 長い 18 世紀のフランスにおける動物・感情・文明 —— 貝 原 伴 寛 1

ラ・メトリーにおける「裁判は医師が行うべき」という思想 蓮 子 雄 太 3

『啓蒙のユートピアと改革』再訪 堀 田 誠 三 4

学会企画

「啓蒙を書く、啓蒙を編む」

—— 『啓蒙思想の百科事典』刊行を記念して ——

長 尾 伸 一・田 邊 玲 子・鳥 山 祐 介・岩 佐 愛・
安 藤 裕 介・久 野 陽 一・増 田 都 希・上 野 大 樹 5

開催校企画

アーカイブの革命

—— 革命期及びナポレオン帝政期ヨーロッパにおける

歴史・記憶と政治的アイデンティティ —— マリア・ピナ・ドナート 6

共通論題

活人画（タブロー・ヴィヴァン）における身体 京 谷 啓 徳 7

論文

大会発表（自由論題）論文

『エミール』第5篇における観察と嘘
「女性の嘘」に関する一考察

源川 まり子 9

Robert Burton's Therapeutics for Melancholy:
A Study in Textual Heterogeneity

榊原 知樹 22

自由投稿論文

理想のルソー像を求めて—

J.-P. ベランジェ 『祖国に向けてルソーを弁護する』（1774年）から

橋詰 かすみ 34

共通論題論文

ラモー 《優雅なインド諸国》の「平和のパイプのダンス」を巡って
— 18世紀のオペラ・バレと「異人種」の文化

森 佳子 48

ゴルドーニと被征服民

— アメリカを扱った二作品を例に

大崎 さやの 62

俳優の家系はなぜ途絶えたのか

～ 18世紀フランス演劇における「生まれ」と「自然」～

横山 義志 76

書評

Daniel Fulda (Hg.), *Revolution trifft Aufklärungsforschung, 1989/90, DDR-Erbe und die Gründung des hallischen Aufklärungszentrums*

後藤 正英 88

加藤泰史編 『スピノザと近代ドイツ 思想史の虚軸』

小谷 英生 89

高木裕貴 『カントの道徳的人間学 性格と社交の倫理学』

笠原 賢介 91

大崎さやの 『啓蒙期イタリアの演劇改革 ゴルドーニの場合』

奥 香織 93

王寺賢太『消え去る立法者：フランス啓蒙における政治と歴史』	淵田仁	95
川出良枝『平和の追求－18世紀フランスのコスモポリタニズム』	王寺賢太	96
ジャン＝ジョルジュ・ノヴェール『ノヴェール「舞踊とバレエについての手紙」(1760年)全訳と解説』森立子編著・訳	永井玉藻	99
荒井宏祐『よみがえる教育 自然界教育ールソーの自然界思想と自然界教育を軸に』	飯田賢穂	100
Rachel Carnell, <i>Backlash: Libel, Impeachment, and Populism in the Reign of Queen Anne</i>	中島渉	104
Angela Wright and Dale Townshend (eds.), <i>The Cambridge History of the Gothic. Volume 1: Gothic in the Long Eighteenth Century</i>	伊藤優子	106
Surya Parekh, <i>Black Enlightenment</i>	落合一樹	107
鈴木善三著『啓蒙の杜——十八世紀英文学論』	武田将明	109
『イギリス思想家書簡集：アダム・スミス』篠原久・只腰親和・野原慎司訳	有江大介	111
寺田元一会員の寄稿掲載にあたって	日本18世紀学会年報編集委員会	113
『生と死—生命という宇宙』書評に対する 訳者からの「応答」に反論する	寺田元一	115
展覧会評		
「特別展 生誕270年 長沢芦雪—若冲、応挙につづく天才絵師—」	尹芝恵	117
「近代ロンドンの繁栄と混沌—東京大学経済学図書館蔵 ウィリアム・ホガース版画（大河内コレクション）のすべて」	出羽尚	118
<i>Angelica Kauffman</i>	出羽尚	120

会員業績	122
編集後記	125
会則	126
役員選出に関する細則	129
投稿規程	130